

令和５年度第２回厚木市環境教育等推進協議会会議録

〔会議主管課〕 環境農政部環境政策課

〔日 時〕 令和５年 11 月 22 日（金）14 時から 16 時まで

〔場 所〕 市民交流プラザ 602

〔出席者〕 厚木市環境教育等推進協議会委員 8 人

環境農政部長、環境政策課環境政策係長、ほか事務局 2 人

令和５年度第２回厚木市環境教育推進協議会

1 開 会

2 挨 拶

3 案 件

（１）厚木市環境学習プラン（素案）について

4 その他

事務局

それでは、次第に従って、案件に入らせていただきます。
議長につきましては、会長にお願いしたいと存じます。
会長、よろしくお願いします。

会長

よろしくお願いします。
本日、傍聴者はいらっしゃいますでしょうか。

事務局

おりません。

会長

では、案件（１）厚木市環境学習プラン（素案）について、事務局から説明をお願いします。

事務局

【資料に基づき説明】

会長

ありがとうございました。
御意見、御質問等ある方はいらっしゃいますか。

A委員

資料３についてですが、記載されている厚木市民実感度調査は、市民意見調査とは違うのでしょうか。

事務局

厚木市では、「市民実感度調査」、「市民意見調査」、「市民満足度調査」の三つが行われており、そのうちの一つです。

A委員

市民実感度調査を毎年 5,000 人を対象に行っているのでしょうか。

事務局

市民実感度調査は、総合計画の施策の指標としても絡んできますので、毎年度

実施しています。環境部門だけではなく、約 80 個の設問に対して、5000 人を対象に実施しています。

A 委員

継続的な評価をするために、この質問内容を変更することはできないということでしょうか。

事務局

そのとおりです。

A 委員

分かりました。ありがとうございます。

会長

ほかにありますでしょうか。

B 委員

世界中で環境について騒いでいる割に全然解決しません。学生の間でも、ごみについて触れられることが多いですが、この環境学習プランは地球のシステムの本質に触れて、踏み込んだものにしてほしいと思っています。

会長

御意見ありがとうございます。

自ら気付いて、行動することが大事だと思います。自発的に取り組むことで、根本的にシステムを変えていかないと目の前のことしか対応できなくなってしまう。また、環境を学んでいる人が優位に立つ仕組みではなく、それぞれの立場からどこに主体を置いて環境学習に取り組んでいくのかをこの協議会で考える必要があると思います。

C 委員

2 ページに環境教育とは、「環境を思いやった行動をできる人」とありますが、環境を思いやるだけでは問題解決にはならないので、定義にも記載されているように「持続可能な社会の構築」を目指すことが大事だと思います。

また、環境教育と類似した E S D（持続可能な社会を実現していくことを目指して行う学習や教育活動）でも気候変動の問題が喫緊な課題となっています。1

ページの「プランの策定に当たって」にも「カーボンニュートラルの推進」や「気候変動の改善」との記載がありますので、危機感を感じられるような内容が良いと思います。改善策として、最後の文では「環境に配慮した」だけでは弱いので、「環境を正しく理解し、課題を発見、解決に向けた行動」を記載するのが良いと思います。

D 委員

今回、市としては、12 ページの三つのステップに沿って、きっかけを与え、体験等を通して理解し、今後の行動につながることを大事だと考えています。きっかけがないから発展していかないということもありますので、イベントなど何か一つきっかけになるものをつかめれば、幅が広がっていくと思っています。また、実践するだけでは効果も薄く世の中は変化しないので、周りを巻き込み一緒に行動していくといったことを大事にしたいと思っています。

最終的な目標は、持続可能な社会をつくることであり、そのための人材を育成するという意図があります。その意図が伝わるような計画にするための御意見をいただきたいと思います。

A 委員

自分が主役の行動に結びつくような計画にしていく必要があると思います。

しかし、その評価としては、市民実感度調査では非常に大まかなため、目的が達成できないと思いますので、独自のアンケートを作成して指標としたほうが良いと思います。

C 委員

資料3は、もう少し具体的にする必要があると思います。(1)では「実感している人」、(2)では「重要視している人」と気持ちの部分だと思います。状況把握という意味で、「実践したことがある人」や「参加したことがある人」などどれだけ行動しているかを測れるような内容が良いと思います。

会長

環境教育というと小中学校で行われているイメージがありますが、先生方はこのプランを見て御意見ありますでしょうか。

E 委員

SDGs につきましては、持続可能な社会ということで指導要領にも掲げられており、全ての学校で取り組んでいます。内容としては、新規のものを取り入れる

のではなく、これまで取組んできたことがSDGsのどの項目に該当するか、どこに繋がっているかを学ぶということです。しかし、学校ごとに取組状況が異なっていますので、自分ごととしてどう捉えていくかが大事だと思っています。また、対象が全ての市民ですので、学校教育だけでなく社会教育として全ての市民とつながると良いと思います。

G委員

学校では、子どもたち自身に考えて行動してほしいという思いがあり、実際に児童委員会では高学年が環境を考えながら自らの活動の中でできることを行動に移したりもしています。

また、市の事業としては、4年生で食品ロスについて、一部の小学校の5年生では水辺の環境教育について授業をしていただいています。実際に外部の講師を通して体験しながら学ぶことで、生きものと環境の繋がりや家庭での食品ロスについて積極的に取り組むようになっていっていると思います。自分で経験することが大事だと思います。

D委員

環境教育プランという言葉は、社会教育や市民団体の活動も含まれますが、学校教育のことだと思われがちなので、学校はメインフィールドの一つと考えています。学校教育では既に取り組んではいますが、現場は厳しいという部分もありますので計画の中では型にはめた決まりは入れない予定です。一方で、フィールド事業や環境学習に対して参加したい事業のお問合せや紹介など、手助けになるようなものは記載したいと思っています。また、ほかにも記載した方がよいものがあれば、御意見をいただきたいと思っています。

C委員

題名に自分ごとに関心できるような、サブタイトルのようなものをつけることは可能でしょうか。

D委員

行動計画という言葉は入れたいと考えていますが、それも含めて検討します。

事務局

指標の部分で何か御意見ございますでしょうか。

先程、A委員から独自のアンケートなどの御意見をいただきましたが、事務局としては厳しいと考えています。各分野の実績としては、実施回数や参加人数な

どでお示しすると思いますが、全体としては、環境教育にどれほどつながっているという指標が伝わりづらいので、ほかにも御意見があればお願いします。

会長

イベントごとにアンケートを取るのは良いと思います。

事務局

市で通年行っている環境のイベントとしては、さがみ自然フォーラムがあり、隔年で環境フェアも開催しています。そういったところでは、アンケートを取っており指標となるか検討しています。

会長

ほかにも御意見ございますでしょうか。

無いようですので、事務局にお返しします。

事務局

それでは案件4「その他」についてですが、委員の皆様から本日の案件以外で、御意見や御質問、連絡事項等がありましたらお願いします。

よろしいでしょうか。

以上をもちまして、本日の協議会を終了します。